

# 恩賜賞

山下 興亜

## 功績概要

名古屋大学では、36年間の永きにわたり、農学部養蚕学講座に在職し、農学部教授、農学部長、同大学副学長を歴任し、高潔な人格、該博な知識、および卓越した指導力により、後進の人材育成に尽力し、多くの俊秀を斯界に輩出させるとともに、家蚕といくつかの昆虫の休眠生理、生殖生理、ならびに発生生理に関わる多くの貴重な研究成果をあげた。

とりわけ、休眠ホルモンの単離に成功し、休眠ホルモンは、24個のアミノ酸で構成される新規のペプチドアミドで、その遺伝子は類似の構造をもつ少なくとも4種のペプチドホルモンをコードしていることを明らかにしたこと、休眠ホルモンは、食道下神経節の僅か7対の分泌細胞から体液中に分泌され、発育中の卵巢の細胞膜に特異的に局在する受容体を介してホルモン情報を細胞内に伝達すること、休眠の誘導、維持、および覚醒に伴って発現する特異的な炭水化物代謝を体系的に解明したこと、さらに、家蚕卵の卵形成と胚発生のタンパク質代謝に関する研究を推進し、卵形成と胚発生に必須の卵特異タンパク質を発見したなど、家蚕の卵休眠機構に関する研究成果は卓抜しており、国の内外から極めて高い評価を受けている。

また、名古屋大学退職後は、中部大学副学長、学長として同学における教育と研究及び人材育成に尽力し、多くの人材を育成・輩出した。

氏は大学における研究・教育に留まらず、学会活動や学術活動にも広範にわたって多くの重要な貢献をしており、日本蚕糸学会では、東海支部長、理事、副会長などを長期にわたって歴任し、蚕糸学の発展に尽力した。

さらに、平成6年7月から日本学術会議会員、同12年7月からの3年間は同会議の第六部（農学）部長を務め、農学分野を代表する改革委員会の委員として、当時の緊急課題であった同会議の組織改革に大きく貢献した。

これら一連の功績により、昭和45年蚕糸学進歩賞（日本蚕糸学会）、同55年蚕糸学賞（現日本蚕糸学会賞、日本蚕糸学会）、平成2年日本農学賞（日本農学会）、読売農学賞（株式会社読売新聞社）、同8年ルイ・パスツール賞（国際養蚕委員会）、同10年中日文化賞（株式会社中日新聞社）、同13年紫綬褒章、同14年蚕糸功績賞（大日本蚕糸会）、同20年国際昆虫学賞（国際昆虫学会議）、同30年瑞宝中綬章が授与されている。

このように、同人は、大学における蚕糸学の教育研究を基軸として、わが国の学術の振興と発展に多岐にわたって極めて重要な貢献をしており、その功績は誠に偉大である。